KO PROPO®

EX-5UR

Ultra High Speed Response

取扱説明書

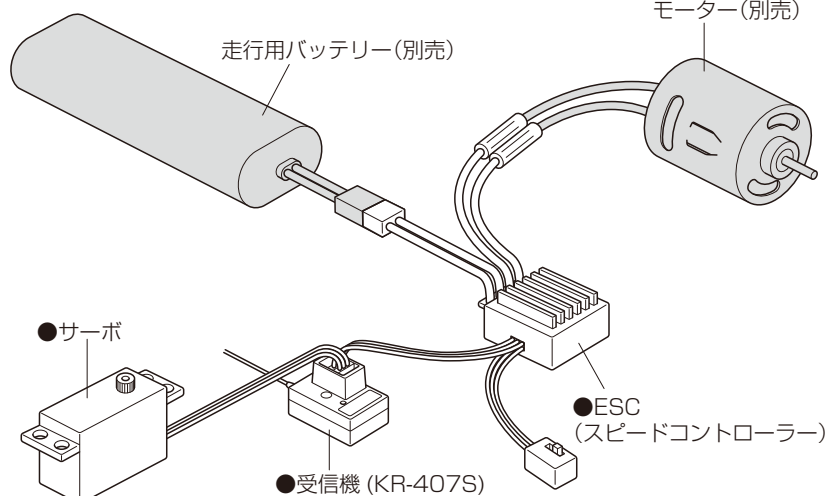
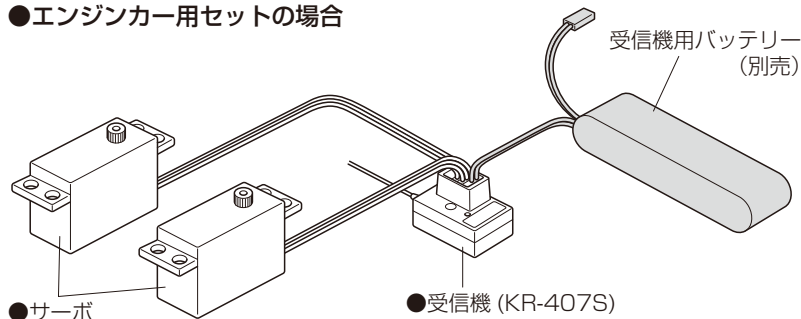
www.kopropo.co.jp

この度は EX-5UR をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。説明書をよく読み、安全にラジコンをお楽しみください。

EX-5UR の特長

EX-5UR は、バランスのとれた使いやすい操作性の入門用機種でありながら周波数を2.4GHzとして送信機のレスポンスはトップクラスであり、従来のクリスタル方式のようなバンドの空きを探す必要なく複数台数での同時使用を可能としています。初心者からベテランまで広範囲をカバーするオールマイティなハイスタンダードモデルです。27種類の豊富な機能により、レース向けの細かなセッティングも可能としております。本セットには、電動カー向けの「スピードコントローラーセット」と、エンジンカー向けの「2サーボセット」の2つがあります。
共通説明書となっておりますので、お買い上げのセットの説明をご参照ください。

セット内容と接続方法

●送信機（EX-5UR）

●サーボホーン
●サーボ用グロメット
●デジタルサーボシール
●受信機用コネクターキャップ

●電動カー用セットの場合

走行用バッテリー（別売）
モーター（別売）
●サーボ
●ESC
（スピードコントローラー）
●受信機 (KR-407S)

●エンジンカー用セットの場合

受信機用バッテリー
（別売）
●サーボ
●受信機 (KR-407S)

【注意！】 セットに含まれている機器以外をご使用の場合、Ultra レスポンス対応製品をご使用ください。
弊社のウェブページの対応表でご確認いただけます。（www.kopropo.co.jp）

MADE IN JAPAN

安全にご使用いただくために

ラジコンの性質上、取扱いを誤ると危険な結果を招きます。できるだけこのような事態をさけて安全に本製品をお使いいただくために、下記項目をよく読んでお使いください。なお、下記の注意事項に反して使用した場合のご自分や他人への損害は、弊社では責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

⚠警告! 取扱いを誤って使用した場合〔死亡または重傷を負う可能性が想定され高い頻度で物損事故が発生する〕内容です。
⚠注意! 取扱いを誤って使用した場合〔傷害を負う可能性または物損事故のみが発生する事が想定される〕内容です。

機器の取り付け時の注意

⚠警告! 禁止事項

●模型（車体・船体）に、振動で金属パーツが触れ合わないようにする。
※金属同士の接触でノイズが発生し、受信機が誤動作して暴走することがあります。
●受信機のアンテナ線は切ったり束ねたりしない。　※受信感度が下がり、暴走することがあります。
●送信機・受信機の電池を入れるときは、極性を間違えないでください。　※製品が破損します。

⚠警告! 強制事項

●本製品は、日本国内にて、用途が地上・水上模型に限定されています。
※指定外の使用は危険ですのでおやめください。
●受信機・サーボ・スイッチ等のコネクターは、確実に奥まで差し込む。
※走行中の振動によりコネクターが抜けると、暴走することがあります。
●受信機は必ず厚めの両面テープで固定し、ケースが直接他に触れないようにする。
※強いショックや振動で暴走することがあります。
●サーボを動作させ、プッシュロッドに無理な力が加わっていないか確認する。
※サーボが故障したり、電池の消耗が早くなります。
●サーボの固定には、ゴムグロメットを必ず使用し、サーボケースが直接メカプレートに触れないようにする。
※サーボに直接振動が伝わって故障し、暴走することがあります。
●送信機・受信機・サーボ・スピードコントローラー・その他オプションパーツは当社純正品をご使用ください。
※当社純正品以外との組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いかねます。

使用時の注意

⚠警告! 禁止事項

●雷の鳴っているときには使用しない。　※アンテナに落雷の危険があります。
●雨天や水たまりのある場所では使用しない。　※製品に水が入り、暴走することがあります。
●次のような場所では使用しない。
1.ラジコンサーキットの近く（3km程度以内）　2.人や道路や車・船の近く　3.高圧線や通信施設の近く
※混信やトラブルにより暴走した場合、危険な事態になります。
●疲労・飲酒・服薬により集中力に支障をきたすような時には使用しない。
※判断ミスにより思わぬ事故を引き起こします。
●エンジンの燃料や排気等を本製品のプラスチック部にかけない。　※放置しておくと侵され、破損します。

⚠警告! 強制事項

●現在のモデルメモリーが実際に走行させるモデルのものか、必ず確認する。　※暴走の原因になります。
●送信機の機能設定を変更する時は、必ずエンジンを停止した（モーター配線を外した）状態でおこなう。

⚠注意! 禁止事項

●走行後、エンジンやモーター・スピードコントローラー等、熱くなっている部分に触れない。　※火傷します。
●送信機は高周波電力をアンテナから発射しているので、指で触れると刺激を受けることが稀にあります。

⚠注意! 強制事項

●電源を入れるときは、送信機→受信器 の順でおこない、切るときはその逆の 受信器→送信機 の順でおこなう。
※順番を逆におこなうと、受信器がノイズを拾い暴走することがあります。
●送信モジュールは、法令により分解が禁止されており、罰則の対象となります。すべての製品の分解・改造はショートその他の事故の原因となります。また、サービス部での修理の受付をお断りする場合があります。
●航空機内・病院内、火災報知器などの自動制御機器および医療電気機器の近くなどでは、本製品は使用しないでください。誤作動による重大事故が発生する場合があります。また、法令上他の無線機器や電子機器に影響を与える場合には、直ちに使用を中止しなければなりません。
●2.4GHz帯のプロポには、(財)日本ラジコン電波安全協会の登録が必要になります。ご購入いただいた送信機は登録済みの製品です。登録証明機関の証明のないものは電波法違反となります。

使用後の注意

⚠警告! 強制事項

●電動カーの場合、必ず走行後には走行用バッテリーをはずす。
※誤って電源が入った時、暴走したり火災の原因になったりすることがあります。
●送信機や電池・モデルを幼児の手の届かない所に保管する。
※化学物質による被害を受けたり、ケガの危険性があります。

⚠注意! 強制事項

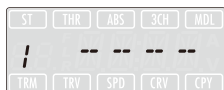
●長期間使用しないときは、送信機から電池をはずしておく。
※そのまま放置すると、電池の液もれにより送信機が破損する恐れがあります。
●送・受信機は下記のような場所には保管しない。
1.極端に熱い所や寒い所（40°以上～10°以下）　2.直射日光の当たる所　3.湿気の多い所　4.振動の多い所
5.ホコリの多い所　　※このような所に保管すると、ケースの変形や故障の原因になります。

各部の名称

LCD 画面（初期画面）

モデルネーム（MENU26）　　送信機電圧

ST THR ABS 3CH MDL　1 -- -- -- --　TRM TRV SPD CRV CPY

ST THR ABS 3CH MDL　12.5 V　TRM TRV SPD CRV CPY

一定時間が経過すると、電圧表示に変わります。

※電池が消耗するとエラーアラームが鳴ります。電波の出力が低下していますので、早急に電池を新品に交換してください。

●送信機（EX-5UR）

アンテナ

ET1 レバー（ステアリングトリム）

ハンドル

ET2 レバー（スロットルトリム）

Foward キー

＋／Enter キー

−／Cancel キー

Back キー

電源スイッチ

ET3 レバー（ステアリングトラベル）

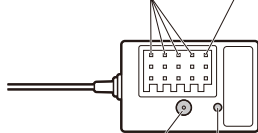
ET4 レバー（3CH コントロール）

スロットルトリガー

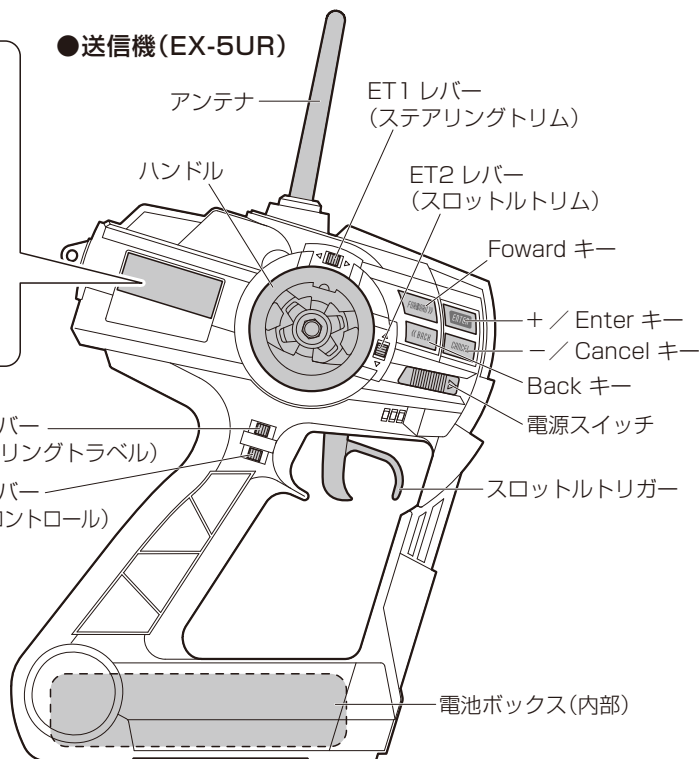
電池ボックス（内部）

●受信機（KR-407S）

チャンネル 1〜4コネクター

バッテリーコネクター

セットボタン

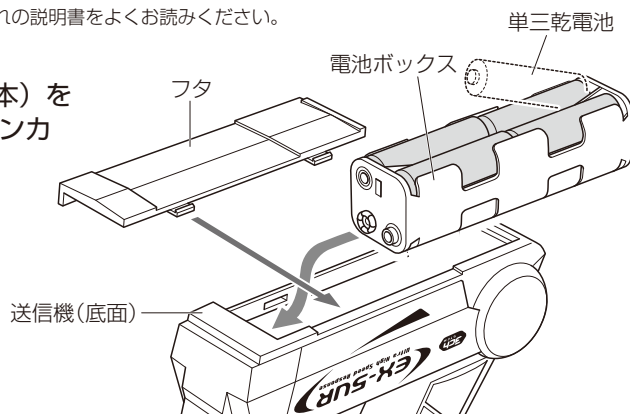
LED インジケーター

※サーボ・スピードコントローラーはそれぞれの説明書をご参照ください。

機器の準備

1. お手持ちのモデルに、受信機・サーボ・スピードコントローラー（電動カーの場合）を搭載し接続します。受信機はノイズ対策に注意して搭載してください。←P.4参照

※接続やご使用の際は、サーボ・スピードコントローラーのそれぞれの説明書をよくお読みください。

2. 送信機の電池ボックスに電池（単三乾電池×8本）を入れ、電動カーは走行用バッテリーを、エンジンカーには受信機用の電池をセットします。

※十分に容量のある電池を＋／−に注意して入れてください。
容量が少ないと送信出力が低下し、動作不良をおこします。

3. 受信機を送信機に認証させる「ペアリング」をおこないます。←P.5参照

※EX-5URは初めて受信機を動作させる際に、送信機の持つ固有のID番号を受信機に記憶させる「ペアリング」作業が必要になります。
一台の送信機で複数の受信機（車体）を動作させる際にも、ペアリングを各々の受信機に最初の1度だけおこないます。

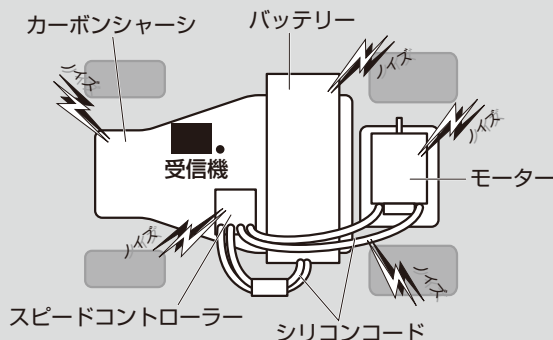
4. ステアリング調整とスロットル／ブレーキ調整をおこないます。←P.5参照

5. フェイルセーフ機能の設定をおこないます。←P.15参照

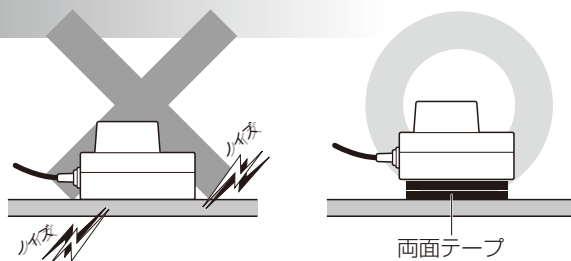
受信機搭載時の注意（ノイズ対策）

全てのノイズ発生源から受信機とアンテナ線を遠ざける！

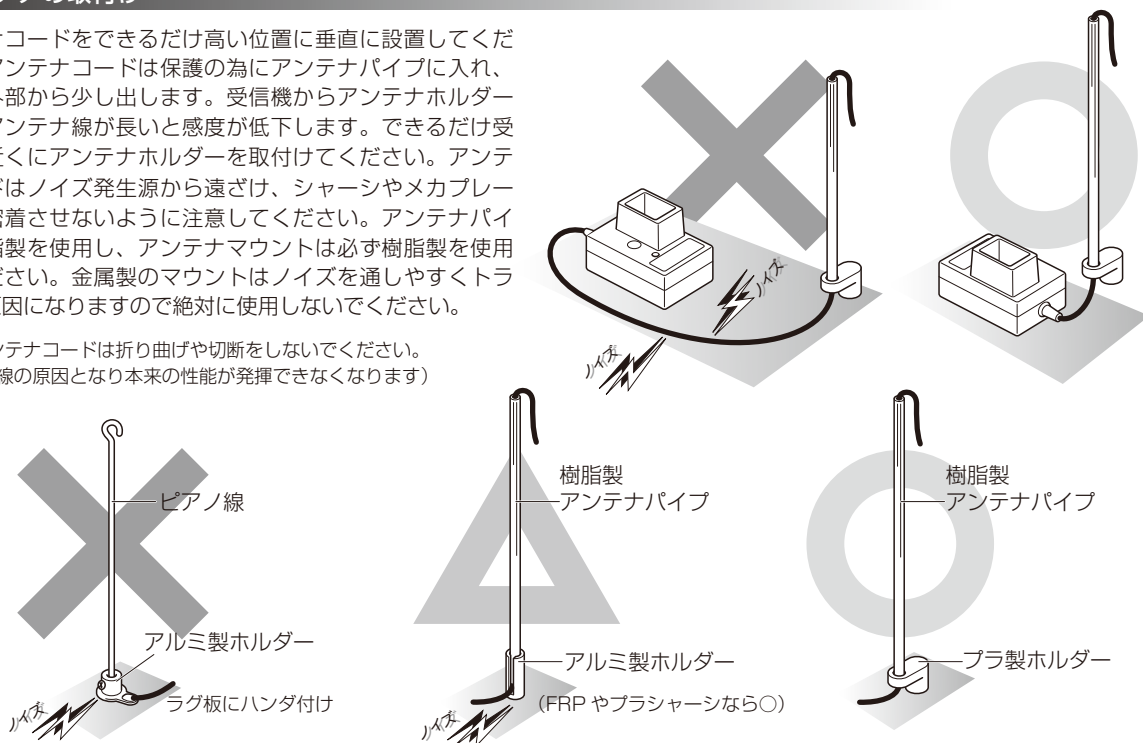
ノイズに注意！

大電流が流れている部分は全てノイズを発生しています。受信機とアンテナ線は、モーター・バッテリー・スピードコントローラー・シリコンコードからできるだけ離して取付けましょう。（金属やカーボンシャーシなどの電気を流す素材にもノイズは伝わります。）
電波でコントロールしているRCにとって、搭載している機器類から発生するノイズ対策は、基本であり最も重要なポイントです。きっちり対策して、マシンや機器の性能とドライバーの技術をフルに発揮できる状態にしておきましょう。

●カーボンシャーシへの搭載

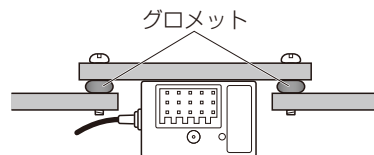
シャーシやメカデッキに取付ける際は、厚手の両面テープを2枚以上重ねて使用して、受信機をシャーシから少し浮かせるようにしてください。シャーシやメカデッキ（特にカーボン製）にもノイズが通っているので、浮かして離すことによりノイズに対しても強くなります。

※受信機の LED が確認できるように搭載してください。

●アンテナの取付け

アンテナコードをできるだけ高い位置に垂直に設置してください。アンテナコードは保護の為にアンテナパイプに入れ、先端を外部から少し出します。受信機からアンテナホルダーまでのアンテナ線が長いと感度が低下します。できるだけ受信機の近くにアンテナホルダーを取付けてください。アンテナコードはノイズ発生源から遠ざけ、シャーシやメカプレートにも密着させないように注意してください。アンテナパイプは樹脂製を使用し、アンテナマウントは必ず樹脂製を使用してください。金属製のマウントはノイズを通しやすくトラブルの原因になりますので絶対に使用しないでください。

※アンテナコードは折り曲げや切断をしないでください。
（断線の原因となり本来の性能が発揮できなくなります）

●エンジンカーへの搭載

エンジンの振動は想像以上に受信機にダメージを与えます。必ずキット付属のグロメット（受信機ホルダー）を使用し、振動に備えて取付けてください。
シャーシやメカプレートに両面テープで直接貼り付けるのは厳禁です。
エンジンやマフラーからの熱や排気のかからない場所に取付けてください。

※受信機の LED が確認できるように搭載してください。

▶ペアリングの方法

送信機に受信機を認証させます。

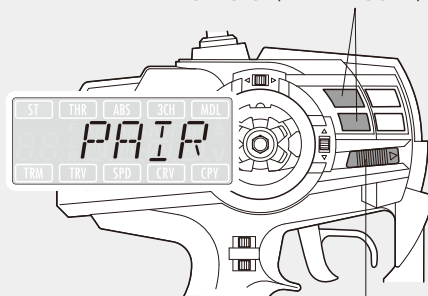
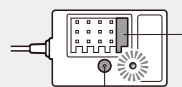
① 送信機の Forward キーと Back キーを同時に押しながら電源スイッチを入れます。

② LCD画面に「PAIR」が表示され点滅し、ブザー音が鳴ります。

③ 約5秒後、点滅とブザー音が終了し、LCD画面には「PAIR」が表示されます。これで送信機の準備は完了です。

④ 受信機を送信機に近づけます（約1m以内）

⑤ 受信機のセットボタンを押しながら受信機の電源を入れます。

⑥ セットボタンを離して、受信機のLEDインジケーターが点灯したらペアリング完了です。送信機と受信機の電源を切ります。

▶動作の確認をします

① 送信機 → 受信機の順に電源を入れて、受信機のLEDインジケーターが正常に点灯していることを確認します。

② サーボやアンプの動作を確認します。

▶ステアリングの調整

ステアリングサーボの動作量を調整します。

①「MENU02: ステアリングトリム」を0（初期設定）にします。

② ステアリングがニュートラルの状態で直進するように「MENU08: ステアリングサブトリム」を調整します。

③ ハンドルを切ってみます。切れすぎてリンケージがロックしてしまう場合は、「MENU03: ステアリングトラベル」で数値を減らします。切れ角が足りないようなら「MENU04: ステアリングバランスR」と「MENU05: ステアリングバランスL」で左右別々に舵角を増やして、最大舵角になるよう調整してください。

※低速走行をしてみてに左右の回転半径が違う場合、回転半径の小さい方のステアリングバランスの数値を増やして回転半径が同じになるように調整してください。また、高速走行時にステアリングを切ると車が曲がりすぎる場合には、ステアリングトラベルで舵角を減らして走行しやすいように調整してください。

※走行によるリンクの摩耗や設定調整を重ねることによりステアリングのバランスがくずれてきた場合には、再度調整しなおすことをおすすめします。定期的におこなって、ステアリングのベストコンディションを保ちましょう。

▶スロットルの調整

スピードコントローラー（電動カー）／スロットルリンケージ（エンジンカー）の動作量を調整します。

▶電動カーの場合：スピードコントローラーの説明書をご参照ください。

▼エンジンカーの場合：スロットルリンケージ調整

① スロットルトリガーを握ったときにリンケージに無理がかからないように「MENU12: スロットルハイポイント」で数値を減らします。

② ブレーキ操作をしたときに、無理がかからないように「MENU13: スロットルブレーキ」で調整します。

▶アンチロックブレーキ（ABS）の調整

ブレーキ操作時に、ポンピングブレーキを掛けることによってタイヤがロックして挙動を乱すことを抑制します（アンチロックブレーキングシステム）。ブレーキの強さとポンピングの速さが設定できます。

①「MENU19: ABSの強さ」でABSの強さを設定します。0から数値を大きくしていくとブレーキのポンピング幅が大きくなります。

②「MENU20: ABSの速さ」でABSの速さを設定します。

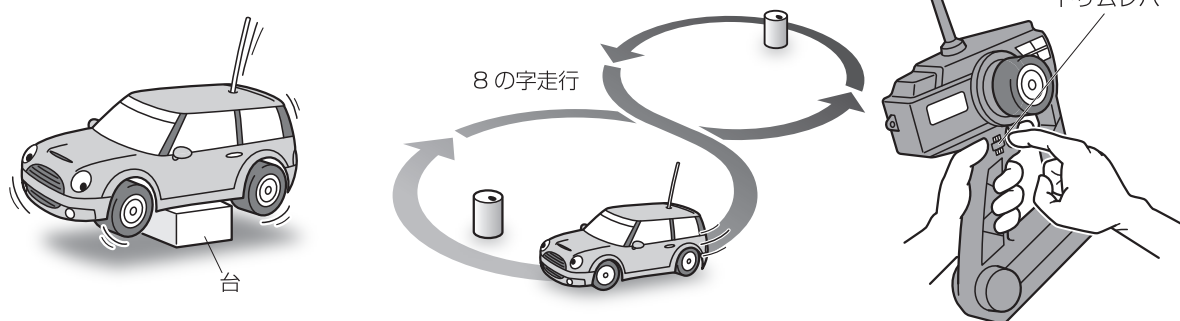
③ ブレーキパッドのストローク以上にサーボが動作してしまう場合やスピードを上げすぎてサーボが微振動を繰り返す場合は、サーボの寿命を縮めてしまうので再度設定します。

■走行させるときの手順

1. **電源ON**：周囲の安全を確認し、**送信機 → 受信機** の順 に電源を入れます。

2. **モデル確認**：使用するモデルを確認します。

※EX-5UR は、電源を投入する度に空いている周波数を自動的にさがして割り当てる「キャリアセンス」をおこないます。
　適切にキャリアセンスがおこなえるよう、できるだけ走行場所に近い位置で電源を入れてください。

3. **動作確認**：タイヤを浮かせた状態で送信機を操作し、モデルが操作どおりに動くことを確認します。
走行しながら、ステアリング／スロットル トリムレバーで微調整します。
８の字走行でステアリングバランスを微調整します。

4. **電源OFF**：走り終わったら **受信機 → 送信機** の順 に電源を切り、走行用バッテリーを外しておきます。

※スイッチの ON ／ OFF は、必ず２秒以上間をおいてください。

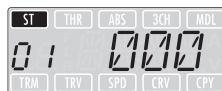
■各種機能（1〜27）

※各設定を変更した後、１秒後に自動的にメモリーします。
　電源を切るときは、設定変更後２秒以上経ってから切ってください。

MENU01：ステアリングモニター

ニュートラル位置

▶現在のステアリングの動作位置を確認できます

ステアリング操作の向きがリバースになっているときは、ステアリングの動きとモニターのＬとＲ表示が逆になります。

MENU02：ステアリングトリム

L50 〜 0（初期値）〜 R50

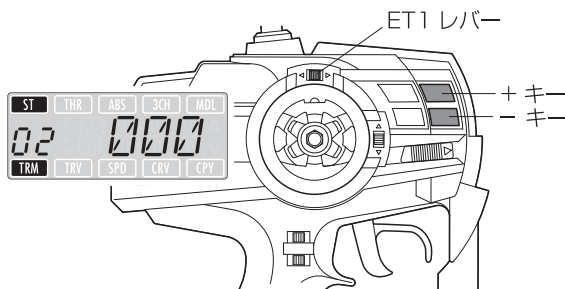
▶走行中にステアリングのニュートラル位置を調整します

＋／ー キー で調整、両押しでリセット

※最大幅はステアリングトラベル、バランスの設定により変化します。

動作角の端は動きません。ニュートラルの位置だけ動きます。

動作角の端を動かしたいときは、「MENU08: ステアリングサブトリム」を調整してください。

ET1 レバーでもステアリングトリムの設定ができます。

MENU03：ステアリングトラベル

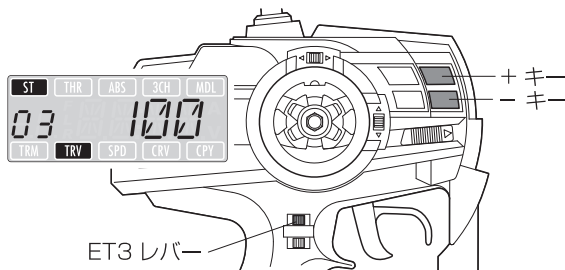
40 〜 100（初期値）〜 120

▶ステアリングホイルをいっぱいに切ったときの、ステアリングサーボの動作量を調整します

操作 ＋／ー キー で調整、両押しでリセット

【注意！】 サーボに無理がかからない舵角に設定してください。故障の原因になります。

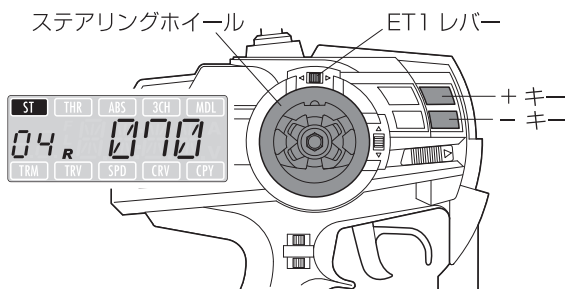
ET3 レバーでもステアリングトラベルの設定ができます。

左右の動作量をそれぞれ調整したいときは、「MENU04: ステアリングバランスR」と「MENU05: ステアリングバランスL」を調整してください。

MENU04：ステアリングバランス R

40 〜 70（初期値）〜 100

▶右側の舵角量を調整します
（左右の回転半径を同じにしたいとき）

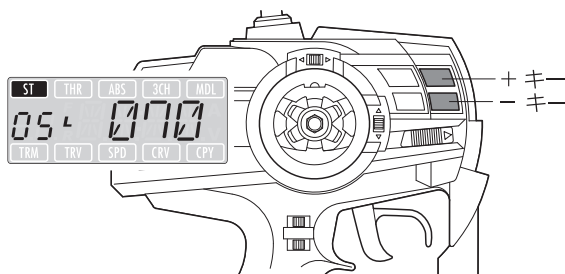
＋／ー キー で調整、両押しでリセット

ステアリングホイールを右にいっぱいに切りながら ET1 レバーを操作すると、ステアリングバランス R の設定ができます。

MENU05：ステアリングバランス L

40 〜 70（初期値）〜 100

▶左側の舵角量を調整します
（左右の回転半径を同じにしたいとき）

＋／－ キー で調整、両押しでリセット

ステアリングホイルを右にいっぱいに切りながら ET1 レバーを操作するとステアリングバランス L の設定ができます。

MENU06：ステアリングスピード

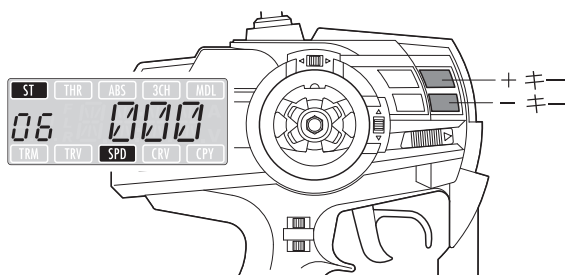
–100 〜 0（初期値）〜 ＋30

▶ステアリングを切ったときのサーボの動く早さ
（スピード）を調整します

操作 ＋／－ キー で調整、両押しでリセット

※ステアリングを切る方向（TURN）と戻す方向（RETURN）の両方に繁栄されます。

スピードタイプのサーボ使用時に +30 以上の設定をした場合、サーボの行き過ぎ現象が起こり、スムーズに動かない症状がでることがあります。

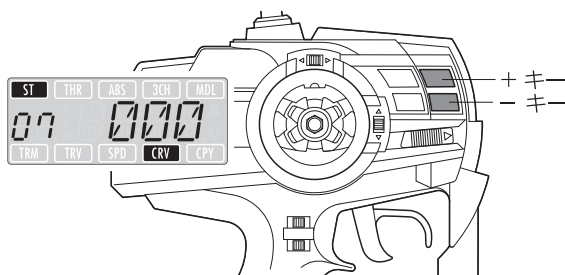
ステアリングスピード +の効果は、サーボの性能により十分に発揮されない場合があります。

MENU07：ステアリングカーブ

–50 〜 0（初期値）〜 ＋50

▶ステアリングを切りはじめのサーボの動く早さ
（レスポンス）を調整します

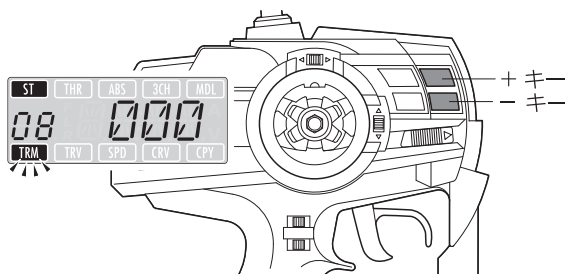
操作 ＋／－ キー で調整、両押しでリセット

※＋: 初期舵角を大きく、後に緩め
　－: 初期舵角を緩く、後に大きく

「ステアリングスピード」など他の設定項目と組み合わせるときは、効果を確認しながら 1 項目ずつ設定を変更してください。

MENU08：ステアリングサブトリム

L25 〜 0（初期値）〜 R25

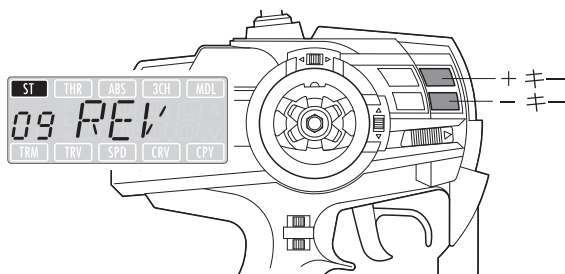
▶動作角の端とニュートラル位置を同時に調整します
（サーボ搭載時やテスト走行時に使用）

- ニュートラルの位置だけを調整したいときは、「MENU02: ステアリングトリム」を調整してください。
- ステアリングサブトリムの値が大きくなったときは、ステアリングサブトリムが0に近付くようにリンケージを調整するなどしてください。値が大きいと、他のステアリング関連の設定によってはステアリングの左右の端でサーボが動かない「不感帯」（信号が変化しないエリア）ができることがあります。

MENU09：ステアリングリバース

REV（初期値）／ NORM

▶サーボの動作方向を切り替えます
（サーボの動作方向が逆の場合に使用）

操作 ＋／− キー で切り替え、両押しでリセット

※REV：リバース　　NORM：ノーマル

MENU10：スロットルモニター

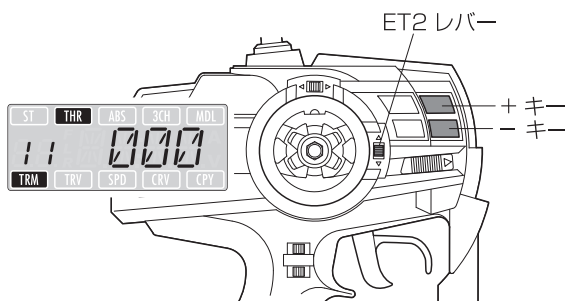
ニュートラル位置

- スロットル操作の向きがリバースになっているときは、スロットルの動きとモニターのFとb表示が逆になります。

MENU11：スロットルトリム

b50 〜 0（初期値）〜 F50

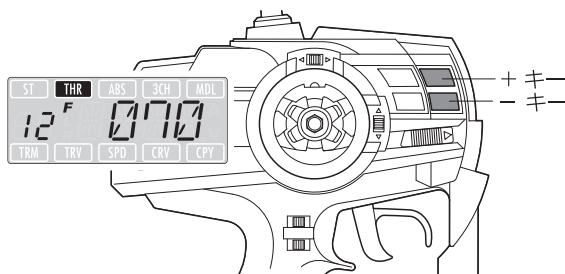
▶走行中にスロットルのニュートラル位置を調整します

- 電動カーの場合、ESC 側で標準設定をおこなえば、基本的にトリム調整は不要です。
- ニュートラルの位置だけ動きます、動作角の端は動きません。動作角の端を動かしたいときは「MENU17: スロットルサブトリム」を調整してください。
- ET2 レバーでもスロットルトリムの設定ができます。

MENU12：スロットルハイポイント

0 〜 70（初期値）〜 100

▶スロットルの前進側だけの最大動作量を設定します
（電動カーの場合はESCの最高速のポイント、エンジンカーの場合はキャブレターのハイ側の設定に使用）

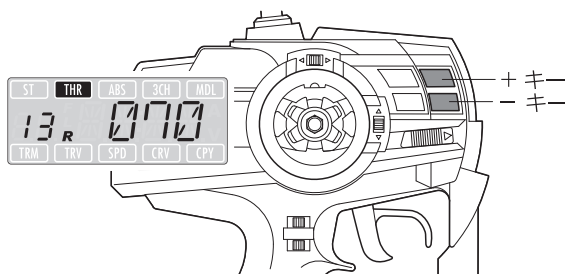
操作 ＋／－ キー で調整、両押しでリセット

【注意！】エンジンカーで設定を大きくしすぎると、リンケージが突っ張ってサーボの負荷が増え、破損の原因となる場合があります。
【注意！】電動カーで ESC をセットアップする場合、設定値が小さすぎるとセットアップが上手くできないことがあります。その場合は、初期値（＋70）に戻してからセットアップしてください。
【注意！】最小値（0）にすると、まったく前進しなく、スロットルサーボも動作しなくなります。
【注意！】スロットルハイポイントの設定値を小さく、「MENU11: スロットルトリム」の設定値を前進側に大きくすると、サーボの動作量が非常に小さくなりますのでご注意ください。

MENU13：スロットルブレーキ

0 〜 70（初期値）〜 100

▶スロットルブレーキ及びバック側だけの最大動作量を設定します

操作 ＋／－ キー で調整、両押しでリセット

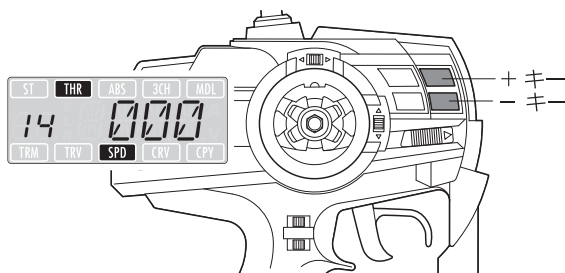
【注意！】電動カーで ESC をセットアップする場合、設定値が小さすぎるとセットアップが上手くできないことがあります。その場合は、初期値（＋70）に戻してからセットアップしてください。
【注意！】最小値（0）にすると、ブレーキがまったく効かなかったり、バックしなくなります。また、ESC 側の機能も影響しますので、走行前には必ずブレーキが効くかテストしてください。

MENU14：スロットルスピード

−100 〜 0（初期値）〜 +30

▶スロットルを前進に引いたときの反応速度の調整します

操作 ＋／－ キー で調整、両押しでリセット

※レスポンスを向上させたい場合は、＋側へ調整。
※車をコントロールしやすくする場合は、－側へ調整。

スロットルスピード +の効果は、サーボの性能により十分に発揮されない場合があります。

MENU15：スロットルカーブ F

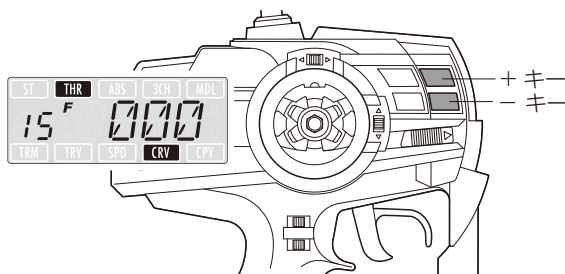
–50 〜 0（初期値）〜 +50

▶スロットルトリガーの前進側だけの操作量に対する
サーボの動作角の変化量を調整します

操作 ＋／－ キー で調整、両押しでリセット

※スロットルトリガー操作に対する反応をクィック（＋）かマイルド（－）にできます。
＋: 初期加速を大きく、後に緩め　　－: 初期加速を緩く、後に大きく

クィックカーブ（数値が＋）の場合は最初に大きく反応し、徐々に反応が鈍くなります。マイルドカーブ（数値が－）の場合は最初の反応が鈍く、徐々に反応が大きくなります。

他の設定項目と組み合わせるときは、効果を確認しながら１項目ずつ設定を変更してください。

MENU16：スロットルカーブ B

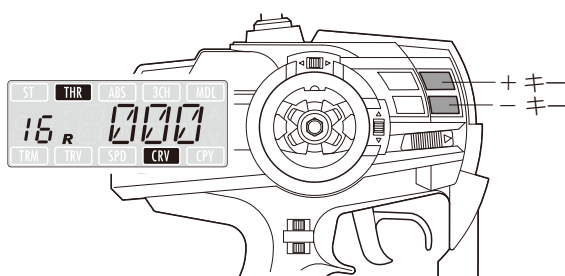
–50 〜 0（初期値）〜 +50

▶スロットルトリガーのブレーキ側だけの操作量に
対するサーボの動作角の変化量を調整します

操作 ＋／－ キー で調整、両押しでリセット

※スロットルトリガー操作に対する反応をクィック（＋）かマイルド（－）にできます。
＋: 初期加速を大きく、後に緩め　　－: 初期加速を緩く、後に大きく

クィックカーブ（数値が＋）の場合は最初に大きく反応し、徐々に反応が鈍くなります。マイルドカーブ（数値が－）の場合は最初の反応が鈍く、徐々に反応が大きくなります。

他の設定項目と組み合わせるときは、効果を確認しながら１項目ずつ設定を変更してください。

MENU17：スロットルサブトリム

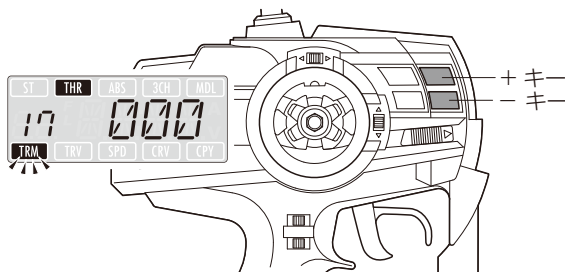
b30 〜 0（初期値）〜 F30

▶動作角の端とニュートラル位置を同時に調整します
（サーボ搭載時やテスト走行時に使用）

操作 ＋／－ キー で調整、両押しでリセット

※中立位置だけでなく、動作角全体が動きます。中立位置をサーボホーンやリンケージで調整しきれない場合に使用します

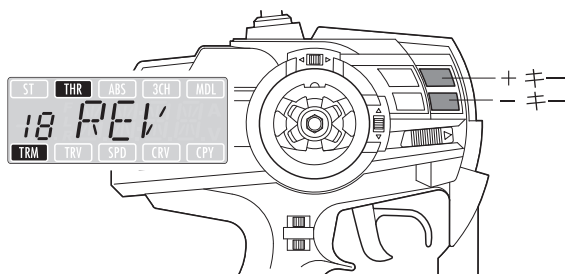
ニュートラルの位置だけを調整したいときは、「MENU11: スロットルトリム」を調整してください。

スロットルサブトリムの値が大きくなったときは、スロットルサブトリムが0に近付くようにリンケージを調整するなどしてください。値が大きいと、他のスロットル関連の設定によってはスロットルの前後の端でサーボが動かない「不感帯」（信号が変化しないエリア）ができることがあります。

MENU18：スロットルリバース

REV（初期値）／ NORM

▶スロットルの動作方向を切り替えます
（スロットル動作方向が逆の場合に使用）

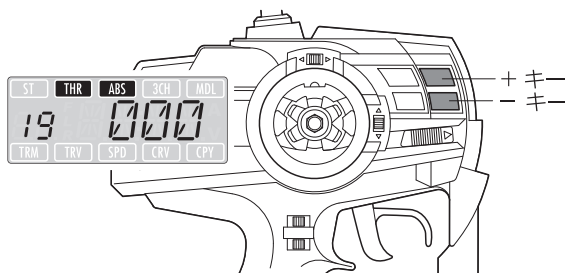
操作 ＋／－ キー で切り替え、両押しでリセット

※REV：リバース　NORM：ノーマル

MENU19：ABSの強さ

0（初期値）〜 100

▶ABSのポンピングの量を設定します

操作 ＋／－ キー で調整、両押しでリセット

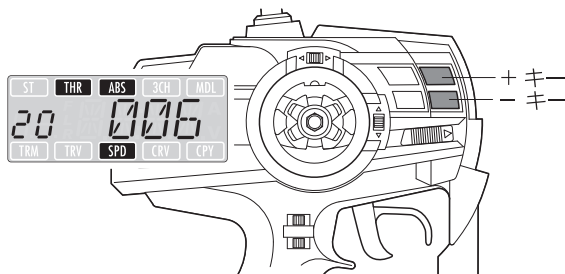
※ABS のポンピングの量を設定します。ブレーキングで車のホイルがロックしてしまい、車の姿勢が乱れる場合に効果があります。また、コーナーリングがスムーズになります。

MENU20：ABS速さ

1 〜 6（初期値）〜 10

▶ABSの動作速度を設定します

操作 ＋／－ キー で調整、両押しでリセット

※数値を小さくするとサーボが遅く動作して、ポンピング周期が短くなります。
数値を大きくするとサーボが速く動作して、ポンピング周期が長くなります。

【注意 !】 数値を大きくしすぎるとサーボの動作電流が増え、サーボの寿命を縮めてしまうことがあります。

MENU21：3chモニター

3ch 動作量

▶現在の3chのサーボの動作量を確認できます

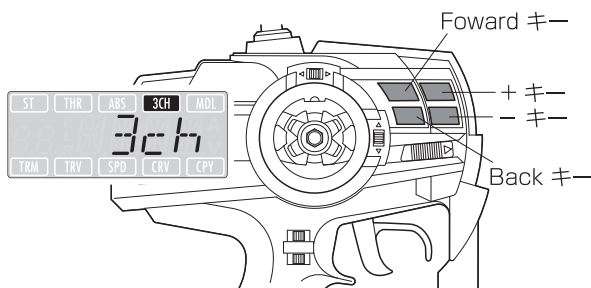
MENU22：3chポジション設定

-127 〜（各初期値）〜 +127

▶3chのサーボの各位置（ポジション 01〜05）での
動作量を設定します

操作

1. + キー を押し
2. Forward／Back キー でポジション選択
3. +／− キー で動作位置を設定、両押しでリセット
4. （05 ポジション）から Forward キー を押し、「EXIT」と表示が出たら + キー を押して確定

出荷状態では -100 / -50 / 0 / +50 / +100 の 5 段階のポジションが設定されています。

MENU23：アジャストボリューム

更新

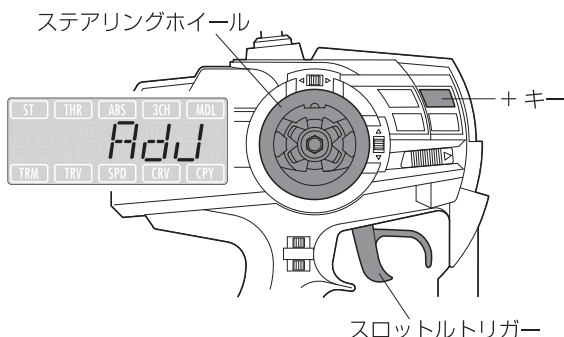
▶消耗したボリュームの設定を更新します

操作

1. + キー を長押し
2. ステアリングを 右／左 いっぱいまで回し、ステアリングから手を離す
3. スロットルトリガーを 前進／ブレーキ いっぱいまで倒し、スロットルトリガーから手を離す
4. 「OK」の表示が出たら、+ キー を押して確定

※送信機のステアリング／スロットルの物理的な限界値とニュートラル位置をCPU に認識させる作業です。ご使用を続けた際のボリュームの消耗や、何らかの衝撃によっての誤作動を補正・改善します。

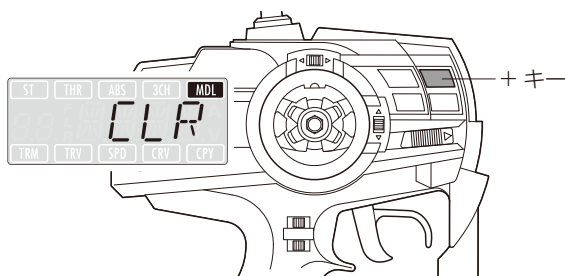
使用頻度や操作方法などによって、この操作が必要になるまでの期間は異なります。

【注意 !】 この操作を不完全に行ってしまうと、かえって動作に不具合が生じることがあります。操作方法が良くわからないときや、この操作をおこなっても不具合が解消されないときは、弊社サービス部まで修理をご依頼ください。

MENU24：モデルリセット

リセット

▶現在のモデルメモリの内容を全て消去します

＋ キー 長押しで消去

※表示が消えたらリセット完了です。
【注意！】工場出荷状態に戻ります。

MENU25：モデルコピー

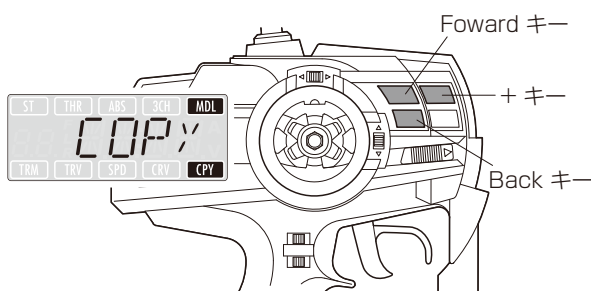
コピー

▶現在のモデルメモリの内容を他のモデルメモリに移し替えます

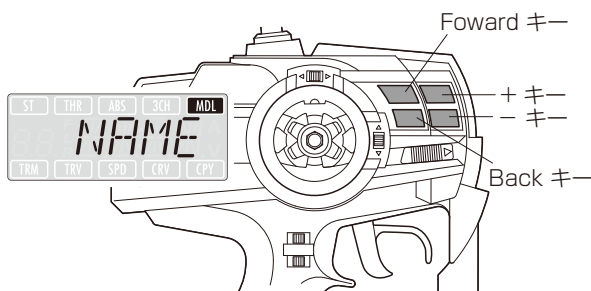
1. ＋ キー を押し
2. Forward／Back キー でコピー先のモデル番号を選択
3. ＋ キー でコピー

※同じ車体でコンディションなどに合わせてセッティングを細かく変えたいときに、モデルメモリをコピーしてから修正すると簡単です。
【注意！】コピーすると、コピー先のモデルメモリに保存されている内容は上書きされます。
【注意！】モデルコピー後、コピー先のモデルセレクトに移動します。例えばモデル１をモデル２にコピーすると、完了後のモデルセレクトはモデル２となり、コピー元のモデル１のデータは保管されます。

MENU26：モデルネーム

登録

▶現在のモデルメモリに名前を登録します

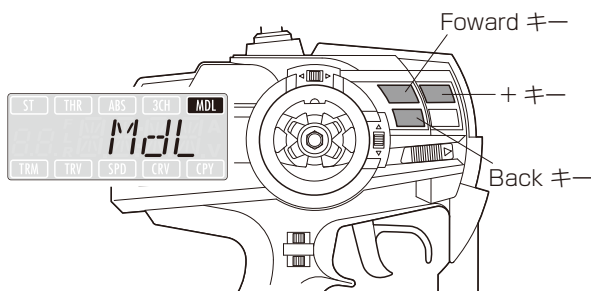
1. ＋ キー を押し
2. ＋／－ キー でアルファベット／数字を選択
3. Forward／Back キー で次の文字に移動
4. 4文字目の後に Forward キー を押し、「EXIT」と表示が出たら ＋ キー を押して確定

入力可能な文字　－＊／@_￣￥＼０１２３４５６７８９
ＡｂＣｄＥＦＧＨＩＪＫＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵＶＷＸＹＺ　＋

MENU27：モデルセレクト

切り替え

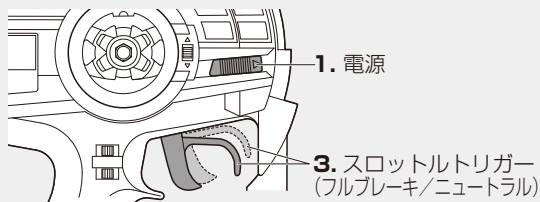
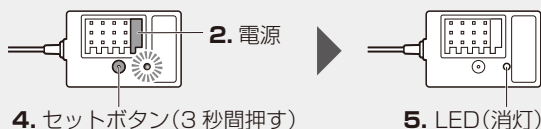
▶現在のモデルメモリを別のモデルメモリに切り替えます

1. ＋ キー を押し
2. Forward／Back キー で別のモデルメモリを選択
3. ＋ キー を押して確定

本機は７台分のモデルメモリを保存できます。車を何台も持っているときに、車ごとにモデルメモリを保存しておくと便利です。また、同じ車でもコースごとにセッティングをモデルメモリに保存しておくことができます。
【注意！】走行中にモデルメモリを切り替えないでください。車の設定が合っていないと、暴走する恐れがあります。

安全機能

▶フェイルセーフ機能の設定

受信機が送信機の電波を失いノーコン状態に陥った場合に、安全のためにスロットル（2 チャンネル）を任意の位置（フルブレーキ／ニュートラル）に保持する機能です。

① 送信機の電源を入れます。
② 受信機の電源を入れ、サーボが動くことを確認します。
③ スロットルトリガーをブレーキ／ニュートラル状態（この状態を記憶）にします。
④ 受信機のセットボタンを3秒間押し続けます。
受信機のLEDが消灯したらボタンを離します。

※フェイルセーフ機能の作動確認は、送信機の電源を切ると確認できます。再設定するまで設定は記憶されます。
※エンジンカーでブレーキリンケージを変更した場合は、再設定をおすすめします。

リファレンス

●電源を入れても動かない

送信機から「ピッ！」というブザー音や画面表示が出ない場合は、乾電池を確認します。
送信機が正常な場合は、受信機のLEDインジケーターを確認してください。

① 明るく点灯していない場合やちらついている場合は電波状況が混み合っているときの症状です。
走行場所を変えるか、しばらく時間を置いてから再度スイッチを入れます。
②LEDランプが点灯していない場合は受信機に電源が到達していない場合です。受信機バッテリーやアンプの配線を確認します。

【注意！】 EX-5UR（送信機）は 2.4GHｚ帯の直接拡散方式（DS 方式）電波を使用しています。この電波帯はラジコンのみならず、パソコンの無線 LAN や Bluetooth、電子レンジなどでも用いられています。これらの影響により、電波状況が込み合っていた場合、EX-5UR のスイッチを入れても KR-407S（受信機）の LED ランプが正常に点灯しないことがあります。受信機の LED が完全に点灯しない、または点滅するような場合は、電波が込み合っていると思われますのでしばらく時間を空けて頂くか使用場所を変えてください。

●もう少し曲げたい

舵角量（ハンドルの切れ角）が足りない場合、ステアリングトラベルレバー操作し、トラベルを増やします。
それでも足りない場合は「MENU04／05:ステアリングバランス」を増やします。

●もう少し反応を良くしたい

「MENU07:ステアリングカーブ」や「MENU06:ステアリングスピード」を、クイック（プラス側）に調整します。

●もうすこし反応を落としたい

「MENU07:ステアリングカーブ」や「MENU06:ステアリングスピード」をマイルド（マイナス側）に調整します。
「MENU07:スロットルスピード」をマイナス側に調整します。

●もうすこしゆっくり走りたい・スピードを遅くしたい

「MENU14:スロットルスピード」をマイナス側に調整します。
「MENU12:スロットルハイポイント」をマイナス側に調整します。

スペック

送信機：KT-309
操作方式：ホイル＋トリガー方式
チャンネル数：3チャンネル
送信周波数：2.4GHz
変調方式：直接拡散方式（DS-SS）
出力：約10mW
ニュートラルパルス：1.5msec
データ保存メモリ：EEPROM
電源：単三×8本、または8セルバッテリーパック
消費電流：約100mAh
動作可能範囲：約半径80m
機能：ハイスピードレスポンス対応（ULTRA）

受信機：KR-407S
受信方式：直接拡散方式（DS-SS）
チャンネル数：4チャンネル
寸法：28×18.3×18.5mm
重量：7.4g
電源：4.8～7.4V
機能：ハイスピードレスポンス対応（ULTRA以上）
ICS、フェイルセーフ

アフターサービス

故障かな？

と思ったらまずもう一度、この説明書をよく見直してください。
それでもわからない場合は、当社アフターサービス部までお問い合わせください。
その際、下記の内容を参考に故障の状況をできるだけ詳しくお伝えください。

- □ お使いの（送信機・受信機・サーボ・モーター・バッテリー・エンジン・車）の名称
- □ 故障してしまったときの使用状況と故障の内容や症状
- □ お客様のご住所・氏名・連絡先電話番号

●修理を依頼される場合は、下記の内容を記入したものを必ず一緒にお送りください。
弊社の製造上の責任による故障の場合、裏面の保証規定に従い6ヶ月間は無償にて修理致します。
下記の保証書に記入の上、お送りください。

近藤科学株式会社　サービス部
〒116−0014　東京都 荒川区 東日暮里 4−17−7
お問い合わせ：☎ 03−3807−7648（サービス部）
営業時間：月曜～金曜（祝祭日を除く）
9:00～12:00・13:00～17:00

ウェブページで公開中の最新情報も御覧下さい。
www.kopropo.co.jp

保証規定

保証期間中に正常な使用状態にて起きた当社製造上の不備による故障は無償修理致します。但し、次の場合を除きます。
1.使用上の不注意、過失操作、事故による故障。
2.弊社外で修理、改造されたもの及び部品の消耗による故障。
3.輸送中の事故による故障や保管上の不備による故障。
4.保証書が修理品に添付されなかった場合。
5.保証書に販売店印、購入日の記入がない場合。

保証書

EX-5UR

お買い上げ日　　年　　月　　日

販売店名・印　　有効期限：6ヶ月間